



一瀬 雷 信 先生 を 悼 む

工 藤 豊

本学基礎化学教授一瀬 雷信先生が昭和40年4月11日心筋硬塞症でなくなられました。全く突然の訃報に接して我々一同深い悲しみと失意にうたれたのである。ここに食物学会を代表して哀悼の意を捧げると共に先生の御冥福を心から御祈り申し上げる次第である。

先生は福井県大飯郡青郷村上津8番地に生れ、長じて第一高等学校二部乙類に入学され、卒業後東京帝国大学理学部化学科に入学、大正10年5月卒業された。同年6月同大学理学部副手となり、大正11年6月第三高等学校化学教授を拝命され、昭和16年8月退官された。昭和16年8月満州国大陸科学院研究官として渡満され、電気化学研究に従事された。右期間中新京工業大学教授を兼任さる。昭和20年6月大陸科学院奉天分院長に就任され、分院開設準備中に終戦となった。昭和21年8月中華民国国立長春大学化学系教授に任ぜられ無機化学を担当さる。昭和23年10月東北師範大学（在長春）化学系教授に任ぜられ理論化学等を担当さる。昭和28年4月退任、同月帰国された。昭和29年4月本学基礎化学の教授として就任され、同30年3月退任された。昭和30年5月岩手大学学芸学部へ転出され、同32年3月退官された。昭和32年4月本学に復帰され、昭和40年4月11日他界されるまで本学の教壇に立たれたのである。

本学に就任されて以来7ヶ年間に、食物学会長として先生の多年の経験と蘊蓄を傾けて食物学科発展のためにまた学生の訓育は勿論、我々教職員の指導育成に尽瘁されたのである。また建築委員として家政学部の建設に日夜寝食を忘れて努力され、ようやく校舎の完成を見てから一年、今から内部の整備充実を計る可き時に先生の如き大黒柱をうしなったことは食物学科にとって大きな損失でありまことに残念至極である。先生の崇高な御意志と教訓を胸におさめて食物学科の充実と発展に邁進する考えである。これが先生の霊をお慰め申す所以であると思う。